

動物と人間の共存

城山中学校 三年 馬場 優琳

皆さんは動物と人間の共存について考えたことはありませんか？動物と人間は同じところもあります。違う生き物です。もちろん、動物の中でも違うところは山程あります。そんな動物と人間は同じ世界で共存しています。動物と人間が同じ世界で過ごしている今、動物と人間それぞれ過ごしていくと感じている事があると思います。私は動物にとっても、人間にとっても過ごしやすい世の中になりたいと強く考えています。完璧に両者ともに過ごしやすい環境にするのは、難しいかもしれませんが、それでも、私達人間が動物のためを思っ、できることをし、動物と人間が楽しく共存できる未来を目指すことは可能だと思います。

なぜ私がこのようなことを考え始めたのか、そこには大きなきっかけがあります。私の家には心臓の病気を持つ、現在十一歳のレオという犬がいます。ある日、母がいつものようにレオの散歩に出掛けました。数分経って帰ってきた母は「レオが嫌な思いをした。」と重たい雰囲気、散歩中に起きた出来事を私に話し始めました。その話の内容は、レオが排泄をしてる姿を、自転車に乗りながら間近ですと、無言で見つめてきた老人がいて、その老人はレオが排泄を終えた瞬間に「拾え！水を流せ！」と怒鳴ってきたというものでした。犬が散歩中に排泄をする事は悪い事ではないし、母も排泄物を回収し、水を流す処理を当たり前に行っていました。老人に怒鳴られた時、母は心の中で強く怒っていたが、冷静に「掃除しますから大丈夫ですよ。」と答えたそうです。ここまででも十分ひどい話ですが、この話には続きがありました。排泄中ずっと間近で見られたあげく、突然の大きな声に驚いたレオは老人に向かって「ワン！」と吠えてしまいました。すると老人が「何だお前！吠えやがって！」と乗っていた自転車をレオを目掛けて動かしてきたそうです。怯えるレオを見て母は「何するんですかーやめてくださいー！」と強い口調の声がでました。その後、老人はそそくさとその場を去っていった。というとても悲しく、ひどい話でした。

人間達がマナーを守らなければ、動物と人間が楽しく共存することが難しくなってしまう。動物にだっていろんな状況、過去、性格があります。さらに大きな欠点として、動物は喋ることができません。人間が動物の気持ちを汲み取ってあげないといけません。

レオは子犬のときにも心無い人間から何度か嫌な思いをしたことがあります。人間、犬たちに警戒心が強く、怖がりなレオだけど、一度信頼すると甘えん坊で吠えることも全くしないとてもいい子です。そんなレオも、もう高齢犬でまた人見知りが強くなり、善意ある人にも吠えてしまうことがあります。心臓の病気のことにも心配でした。もう二度とつらい思い

をしてほしくないとレオだけじゃなく、他の動物に対しても強く思ったのがきっかけで、どうすれば動物と人間が楽しく共存することができるのか考え始めました。

母もこの件からずっと考えていたそうで、数日後、イエロードッグプロジェクトという取り組みがあることを母から教えてもらいました。イエロードッグプロジェクトとは、散歩などで出掛けた時に出会う人や犬に対して、何らかの事情を抱えた犬が「近づかないでね。」「そっ」としておいてね。』という意思表示のため、リードや首輪に黄色いリボンを目印としてつける取り組みです。この取り組みは、何らかの事情を持つ犬にとって良いものだと思います。ですが、この取り組みを知らない人が大勢いるのなら、黄色いリボンをつけていても、気づいてくれないし、意味がないのではないかと私は思いました。そこで、色々な人にこの作文を通して、つらい思いをして生きている動物がいること、動物にとっても人間にとっても、過ごしやすい世の中にするために存在する取り組みが行われていることを広めたいです。この作文が多くの人に伝わって、動物との接し方、自分たちにできることを改めて考え直してほしいと思います。動物のためになにかすることは自分達のためにも繋がります。一緒に動物と人間が楽しく共存できる世の中を目指しましょう。